

行政視察レポート

私たち市議会議員は、特徴ある施策を実施して優れた成果をあげている自治体を視察し、今後の羽村市の行政運営に反映するため、調査・研究を行っています。

平成 21 年度に実施した視察については、昨年 12 月に行政視察報告会を開催し、市民の皆さんにその成果を発表しました。

視察・発表は各常任委員会ごとに行いました。その概要をお知らせします。

◆厚生委員会◆

視察テーマ

緑化推進、環境保全、廃棄物対策

視察日

平成 21 年 10 月 13 日（火）～ 15 日（木）

視察内容・視察先

■鳥取方式による芝生化事業および
N P O 法人との連携について（N
P O 法人グリーンスポーツ鳥取・鳥
取
県鳥取市）

■廃食用油回収システム「ゆかいくん」
について（N P O 法人鳥取発工コタ
ウン 2020・鳥取県鳥取市）



【厚生委員】（左から）水野義裕、○大塚あかね
瀧島愛夫、小宮國暉、◎石居尚郎、鈴木拓也

◆総務委員会◆

視察テーマ

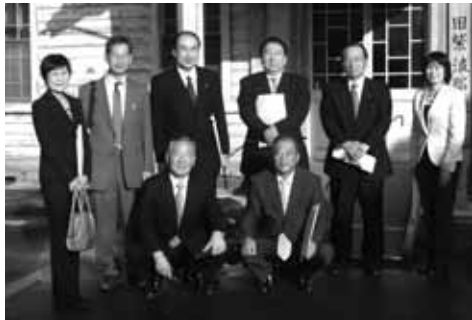
市の施策、市民自治、防災

視察日

平成 21 年 10 月 13 日（火）～ 14 日（水）

視察内容・視察先

■「循環型まちづくり」について（N
P O 法人紫波みらい研究所・岩手県
紫波町）
■三沢基地と軍民共用の現状（青森県
三沢市）



【総務委員】（後列左から）門間淑子、中原雅之
◎濱中俊男、○馳平耕三
（前列左から）露木諒一、船木良教

◆経済委員会◆

視察テーマ

商工業及び農業の振興、都市基盤
整備

視察日

平成 21 年 10 月 14 日（水）～ 15 日（木）
平成 21 年 10 月 27 日（火）

視察内容・視察先

■「ふるさと原風景百選」について
（神奈川県小田原市）
■高校生のチャレンジ・ショップ（吉
商本舗）について（N P O 法人東海
道吉原宿・静岡県富士市）
■農業法人について（農業法人株式会
社秋津野・和歌山県田辺市）
■まちづくりを考える（①埼玉県富士
見市②茨城県那珂市）



【経済委員】（左から）西川美佐保、橋本弘山
市川英子、◎川崎明夫、○中根康雄、山崎陽一

◎委員長、○副委員長

厚生委員会

▼芝生化された河川敷



鳥取方式による芝生化事業及びNPO法人との連携 …NPO法人グリーンスポーツ鳥取（鳥取県鳥取市）

現在全国に広まっている鳥取方式による芝生化を現地視察し、羽村市の芝生化への取り組みを考えるため、NPO法人グリーンスポーツ鳥取を訪れ、その原点は何かということについて学びました。

また、鳥取市が進めている鳥取方式による芝生化の現状について視察しました。

鳥取方式の生みの親は、ニュージールランド出身でNPO法人グリーンスポーツ鳥取の代表をされているニール・スミス氏と、鳥取大学農学部・中野淳一教授であり、平成18年に開催さ

れた日本芝草学会で初めて命名・公表され、平成19年より共同事業として芝生化を推進しています。

コンセプトは、子どもにとって一番身近な公園は校庭（園庭）であり、「身体を動かし楽しさを覚えること」と、また家族・グループでの団らんやスポーツ・地域の祭りや催しなどを通じて、「地域社会を楽しく活性化すること」などを挙げています。

特徴としては、低コストかつ3か月程度の短期間で芝生化が完了すること、年間を通じて常緑であること、

市・NPO法人・市民が一体となつて協働作業で維持管理すること、雑草も抜かずに刈るだけで管理が容易であること、さらに芝生化施工中も使用可能であること等であります。

最初に視察に訪れたグリーンフィールドという場所では、全員がはだしになり、2種類の芝と17種類の草が混在した芝生を実際に体験しました。面積は2万

1千㎡という広大な公園でしたが、年間維持管理費用は人件費がかからず、1㎡当たりわずか50円とのことでした。そのほかにも中学校・保育園・河川敷など芝生化された場所を多数視察し、効用・効果が確認できました。

羽村市において鳥取方式の芝生化を推進するにあたっては、市民への啓発活動の展開、公園・空き地を利用したモデル事業の実施、今年松林小学校が試験モデルとなった東京都が推進している校庭芝生化推進事業の活用等、実現に向けて積極的に取り組んでいけば良いのではないのでしょうか。

廃食用油回収システム「ゆかいくん」について …NPO法人鳥取発エコタウン 2020（鳥取県鳥取市）



▲廃油回収システム「ゆかいくん」

10月16日、鳥取市若葉台地区公民館に設置されている、家庭で出される食用油を回収するロボット「ゆかいくん」を視察しました。

家庭とロボット、回収事業者を情報ネットワークで一元管理するシステムで、総務省の委託事業として鳥取環境大学とNPO法人鳥取発エコタウン2020、回収事業者、ソフトウエア

会社からなるプロジェクトチームが開発したもので、会員がICカードを当てると自動的に注油口が開く等、防犯対策はバッチリ。

ロボットの回収量データ

はインターネット経由で管理サーバーに送られ、満タムになると回収事業者が回収。回収された油はバイオディーゼル燃料として現在、ゴミ回収車の燃料として使用されています。

会員にとりうれしいことはポイント制であること。特典も検討されているそうです。

現在、羽村市では廃食用油は燃やせるごみとして処理されていますが、持続可能な資源循環型社会を目指し、廃食用油のリサイクルを検討してもよいのかもしれない。

総務委員会

「循環型まちづくり」について …… NPO 法人紫波みらい研究所・岩手県紫波町

人類が初めて直面している地球規模の環境破壊を食い止め、循環を実現させることで、人類が失ったものを取り戻そうとする紫波町の具体的な取り組みを視察しました。

「エコセンター」と名づけられた堆肥製造施設・ペレット製造施設等を見学し、循環型まちづくり条例の理念実現に向けての具体策を視察しました。また、すべてが町内産の木材を使用し、ペレットボ

イラーを使用して地球温暖化にも配慮した町立上平沢小学校を訪れ、教育の現場でもこうした理念が実現されている様子をつぶさに見ることができました。さらに、地産地消の推進、学校の地場食材の使用、森林学習、ITC情報の活用等、さまざまな分野で、町民・事業者・NPO・行政が協力しながら、10年後の未来のためにあらゆる資源の循環と対話を通して地域経営力の向上に努める紫波町の行政経

営理念を学ぶ事ができました。紫波町の視察を通して、羽村市でも環境関連条例の整備をさらに進め、近隣自治体と協力して循環型社会を実現する必要があると感じました。また、こうした理念を示し、教育の中で子どもたちに伝え続けることの重要性や、二酸化炭素を削減し、地球温暖化を防ぐための具体策を示す必要性を再認識する視察となりました。



▲ペレット製造装置

三沢基地と軍民共用の現状

…… 青森県三沢市

三沢飛行場（三沢基地）は、在日米軍、航空自衛隊、民間航空の三者が共同利用する日本で唯一の飛行場です。実際の利用率は、米軍66%、自衛隊2%、共同使用32%となっています。民間航空企業の空港施設は、米軍基地外に設置され、3kmの滑走路が共同使用されています。民間航空は日本航空1社のみで、三沢―東京間・三沢―大阪間が運行していますが、新幹線の開通により利用客が減少しました。

三沢基地には、米軍・自衛隊の

大型戦闘機等120機も配備され、毎日、訓練しています。市内には、ミサイル射撃訓練や不発弾処理が行われる対地射撃爆撃場もあり、騒音だけでなく、振動などの被害もあります。特に被害が著しい地域では、小中学校や住宅の集団移転が今も続いています。

三沢基地の面積は、横田基地の約2倍もあり、基地関連交付金は約58億円にもなっています。三沢市は「基地との共存」を市政運営の中に位置付け、さまざま

な相互交流事業を実施していますが、事故・事件も多く、市議会・市民が連携して、米軍をはじめとする関係機関への働きかけを続けています。視察を終えて、「基地の軍民共用」は、さまざまな課題があると感じ止めました。羽村市の横田基地に対する方針は「早期返還」です。この方針に沿って、行政・議会・市民が連携していくことが重要であると、改めて実感しました。

▼三沢飛行場

